

編集後記

今年の梅雨は西日本を中心に豪雨となっております。いよいよ期末を向えて忙しいことと思います。

本号では2006年12月27日から1月5日にかけての、本研究所の北・西部インド総合研究旅行における成果を公表しています。導入として殿村所長の「北・西部インドの視察旅行で考えたこと」をお勧めする。研究対象地における、おだやかではあるが鋭い印象記を読んで、全体像を確認して欲しい。また堀江洋文さんの「ネルー記念博物館・図書館訪問記」では前掲文を補う内容となっています。

巻頭論文として内藤雅雄さんの「コスモポリタン都市ムンバイーとシヴ・セナー党」を掲げています。インドを精通している専門家として、大都市ムンバイーの諸相を明らかにしています。堀江洋文さんの「イギリス東インド会社の盛衰」も東インド会社の独特の実態を究明しています。

西欧哲学者とインドとの連関を指摘しているのが、伊吹克己さんの「スピヴァクとインド—脱構築、サバルタン、サティ—」で、西欧と東洋との思想上の連関を指摘しています。巻末には林義雄さんの和みの連句が興を添えています。

夏期休暇には所員のみなさんが活発な研究活動を展開することでしょう。その斬新な成果をまとめた玉稿をお待ちしています。

(こ)

執筆者紹介 (アイウエオ順)

伊吹 克己	商学部教授
殿村 晋一	人文科学研究所長
内藤 雅雄	文学部教授
林 義雄	文学部教授
堀江 洋文	経済学部教授

専修大学人文科学研究月報

第230号 (2007. 7. 30)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 殿村 晋一